

## ベルマーク新聞 1月号

発行 公益財団法人ベルマーク教育助成財団 東京都墨田区両国3-25-5 JEI両国ビル9階 〒130-0026 電話 03-5638-2320(代表)  
郵便振替口座 00100-7-56035 ホームページ <https://www.bellmark.or.jp/>

## いっしょけんめいやると、元気がでるよ

## 沖縄・読谷村立図書館で宮西達也さんのオーサー・ビジット



①一人ひとり、自信作を持って記念撮影 ②ワークショップで児童に声をかける宮西達也さん ③宮西さん自らも手を動かし、アドバイス

沖縄県読谷村立図書館(山内明秀館長)で12月8日、ベルマーク財団の教育応援隊事業「オーサー・ビジット」が開かれました。本の著者(オーサー)が参加校・団体を直接訪ねて(ビジット)特別な授業をする取り組みで、朝日新聞社との共同企画です。

訪れたのは、絵本作家で、財団の理事でもある宮西達也さん。宮西さんはこれまで数々の賞を受け、作品は小学校の教科書にも取り上げられています。

午前10時、近隣の小学校に通う1年生から6年生の児童29人が集まりました。山内館長が「オーサー・ビジットの開催を目標に、みんなでベルマークを集めてきました。待ちに待って、とうとう今日を迎えることができました。コッコ

と地道に集めたベルマークが、大きなプレゼントになりました」とあいさつして、特別授業が始まりました。

宮西さんはもう準備ができており、動きやすい「つなぎ服」姿です。大きな声で「みんな!ベルマークを集めたら、有名な宮西さんがやってきましたよ!」と笑わせてから、自己紹介。「おじさんは、小学4年生の時に、絵描きになる夢を持ちました。それからいっしょけんめいに絵を描いてきました。なんでもいっしょけんめいにやると、みんなの前でお話する時は少し恥ずかしいけど、元気がでてくるよ」と語りかけました。

まずは宮西さんの絵本「まねしんぼう」と「おっばい」の読み聞かせです。著者本人の楽しい読み聞かせに、児童たちは

大きな笑い声を上げながら、聴き入っていました。

その次は、ワークショップです。

宮西さんが「さあ、みんな自分で考えた『妖怪』『お化け』『宇宙人』なんでもいいから、いっしょけんめい描いてみて」と声をかけました。小さな段ボールに、それぞれ自分で考えた好きな絵を描き、オレンジ色と黒色のマジックで色をつけます。それを切り抜いて、土台の段ボールに貼り付け、自分だけのオリジナルのアート作品を制作しました。最後に、宮西さんが、一つひとつの作品に参加者の名前を手書きで書いた「ネームプレート」を貼り、完成です。

途中で行き詰まりそうな児童には、宮西さんが「がんばれ」「いいぞっ」「かっ

こいいね」などと声をかけ、励ましました。「いっしょけんめい描いた作品はどれもカッコいい。平面に描く絵とは全然違うよね」。完成したそれぞれの作品を「かわいいなあ」と紹介しました。

ワークショップの最後には、全員で自信作を胸に記念撮影をしました。宮西さんは「みんなが想像して描いた作品をいつも楽しみにしています。子どもたちの予想外の発想には、本当にいつも驚かされます」と話していました。

◇

ベルマーク運動には、公民館などの生涯学習施設も参加登録することができ、現在は200近い団体が参加しています。読谷村立図書館では、来館者がベルマークを持ち寄り、活動しています。

## 緊急友愛援助、86団体から寄付

## 能登半島地震の発生から1年

ベルマーク財団は、昨年1月1日に発生し、甚大な被害を出した能登半島地震において、ベルマーク運動参加校や団体からの緊急友愛援助を募集しました。当初は昨年3月末を締め切りとしましたが、大変多くのお申し出をいただき、6月末まで受け付けを延長した結果、合計86団体から2,593,591円の支援が寄せられました。皆様のご厚意にお礼申し上げます。

財団は昨年11月末、特に被害の大きかった石川県輪島市、珠洲市、能登町、穴水町の各教育委員会を訪れ、ヒアリングをしました。それぞれの教育委員会から、学

校ごとに置かれている状況が大きく異なっていることなどを伺いました。9月に現地を記録的な豪雨が襲い、さらなる被害が発生し、復旧活動に大きな支障と遅れができています。復旧はまだ道半ばで、現地が必要とする支援を提供できるよう、各教育委員会と連絡を取りながら、被災校が希望する設備品等を贈ることにしています。

阪神・淡路大震災や東日本大震災などの経験から、復旧や復興には、長期にわたる継続した支援が重要と考えています。引き続き、ベルマーク運動への支援をお願いいたします。



昨年11月末時点の輪島市・輪島朝市付近